

■竹の台地域5カ年計画(進捗状況) 平成26年度～平成30年度

	活動テーマ	具体的な活動	開始時期				備考	課題	H30実施予定
			ステップ1	ステップ2	ステップ3				
			26年度	27年度	28年度	29年度			
1 少子化	(1) 若い世代が住みたいと思える魅力をつくる	① 今ある子育て環境に関する情報をまとめ、既存の媒体(竹の台総合新聞等)で発信する	○	○	○	○			子育て情報の収集と整理・発信
		② 竹の台出身の若者たち同窓会を、「ふれあいまつり」等で企画する	×	×	○	○	H28～ふれあいまつりで同窓会		
	(2) 子育てしやすい環境をつくる	③ 見守り員を募集し、竹の台小学校の放課後教室・図書室開放を実現する	×	×	×	×			
		④ 小学校4,5,6年生(中学生も)が気軽に集える場づくりを検討・実施する	△	△	△	○	たけのパーク	中学生の居場所のニーズ	
	(3) 子どもがのびのび遊べる環境をつくる	⑤ 子どもが自然とふれあう場(農業体験など)を企画・実施する	△	○	○	○	なかま農園 H27～わらぶきあずまや活動(竹の台小)	地域への広がり	
		⑥ 子どもがリーダーになれる人材を見つけ、機会や場を提供する	×	×	×	×			
	(4) 子どものころから地域活動に参加できる環境をつくる	⑦ 今ある地域活動に、子どもが参加しやすい工夫をして参加を呼びかける	○	○	○	○	ふれあいまつり 日曜開放など		
		⑧ 地域委員会や現在活動中の子ども会が、子ども会活動の活動支援を行なう	×	×	×	×	H27年度子ども会消滅		子育て世帯のニーズ把握
		⑨ 竹の台全体で子ども会の復活・統合を図る		検討開始	検討中止	×	×		
2 高齢化	(1) 高齢者が肉体的、精神的に元気でいられる環境をつくるため、立場を気にせず交流できる機会や場をつくる	① 今ある活動グループに関する情報をまとめ、既存の媒体(自治会管理組合掲示板、総合新聞、HP等)で発信する	○	○	○	○	スポーツクラブ・福祉センターサークル活動紹介など		各団体に広報呼びかけ
		② 地域委員会のメンバーが核になり、高齢者の会食等の機会をつくり、呼びかける	○	○	○	○	パンブークラブ H27年度～70歳以上	対象人数増加への対応	
		③ (一人暮らしを中心とした)男性のための料理教室を企画・開催する	×	△	△	△	「おやじの会」		教室や講座の企画・開催を行う人材の養成・発掘
	(2) 高齢者が安心して生活できる環境をつくるため、NPO法人や民生委員と地域が連携し、高齢者の生活を支援できる体制をつくる	④ 地域活動を支援するNPOとの連携を検討し、体制づくりを行う	△	△	△	○	NPO法人「たけのコム」		
		⑤ 高齢者の買物支援(ツアー・JAと連携した移動販売・ITショッピング講座等)を企画、実施する	×	×	△	×	H28年プレんティの利用実態アンケート実施		買い物等支援が必要な高齢者の実態把握
		⑥ 高齢になっても竹の台に住み続けられる施設を行政と連携して整備する	×	△	△	△	H28「地域ケア会議」への参加 H29「地域ケア会議」勉強会		高齢者の居場所づくり施設と地域の情報交換・連携 「地域ケア会議」定期開催
	(3) 地域活動のついでにボランティアを確保するため、退職した男性や高齢者が自らの能力を発揮し、地域貢献できる機会や場をつくる	⑦ 有償ボランティア・人材バンクの仕組みにより、支え合いやすい体制をつくる	×	×	×	△	NPO法人「たけのコム」 人材バンクは×		登録ボランティア制度の検討
		⑧ コミュニティバスの運営を企画、実施する	×	×	×	×			
		⑨ 高齢者が自分の特技や経験(仕事)を伝える講師となれる講座を企画、開催する	×	×	×	×			
3 防犯	(1) 住民全体の防犯意識を高める	① 日頃のあいさつ運動により、顔見知りを増やしておく	○	○	○	○	見守り&あいさつ運動		
		② 警察とタイアップした防犯イベントを企画、実施する	×	×	×	×	警察との連携はできていない(防犯協会)		
		③ 防犯に関するイベント(モデル路線イルミネーション化、空家活用等)を実施する	×	×	△	×	空家対策話し合い(自治会懇談会)		
	(2) 各自治会・管理組合が自主的に防犯活動を実施できる体制をつくる	④ 防災・防犯福祉コミュニティで、各自治会への支援の仕方を検討する	○	○	○	○	各自治会の防犯防災活動実態アンケートを実施		
		⑤ 防災福祉コミュニティの呼びかけで、各自治会で防犯活動実施を検討してもらう	×	×	×	△	交番の「防犯情報」活用		
		⑥ 各自治会主導で、防犯マップ作成、まちの灯り点検、門灯点灯運動などを実施する	△	△	△	×	H27 子ども達による安全マップ作成 自治会によっては実施		
	(3) 門灯点灯などにより夜も明るいまちを実現する	⑦ 大通りに面した企業ビルに、夜間の点灯を要望する	○	○	△	×	H26 マンション建設会社に要望		幹線道路沿いの歩道が暗い
		⑧ 犬の散歩中の方々に「パトロール中」等の夜光の腕章等をつけてもらう	×	×	×	×			
		⑨ 防犯情報(空き巣や声かけ)を効果的に発信する	○	○	○	○	竹の台あんぜん・あんしんネット		竹の台あんぜん・あんしんネット
4 防災	(1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災計画を策定し、それに基づく訓練や、施設・設備・備蓄の整備を行なう	① 避難所運営マニュアル等も含めた竹の台全体の地域防災計画を策定する	○	○	○	○	H26 おたすけガイド H27 避難所運営MA H28 地区防災計画 H29 地区防災計画の規定		
		② 各自治会に呼びかけ、防災(避難計画)を検討、策定してもらう	△	△	△	△	H26 一時避難場所の決定	一時避難所を決めていないところあり	
		③ 防災訓練への参加率を上げる工夫を考え、実施する	×	△	○	○	H28～一斉避難訓練の実施	前任者からの引継	避難訓練継続と参加率アップ
	(2) 災害時に、住民同士で助けあえる力をつける。特に、高齢者をはじめとする災害時要援護者を住民同士でケアできる体制をつくる	④ 各自治会単位で、防災計画に基づく訓練を実施してもらう	×	×	○	○	H28～一斉避難訓練の実施		防災WSの実施
		⑤ 災害対策品の備蓄の確認と整備を行なう	×	△	△	△	備蓄品の確認は毎年実施。整備はできていない		備蓄品の整備検討
		⑥ 今ある防災イベントや講習会の情報を広く提供する	○	○	○	○	イベント毎に広報、記録を作成・配布		竹の台総合新聞やHPの活用
		⑦ 元気な高齢者が、災害時に活躍できる体制を検討、実施する	×	×	×	×			
		⑧ 元気な高齢者を中心とした訓練を実施する	×	×	△	○	H28 避難訓練に参加		避難訓練時に高齢者に参加してもらう
		⑨ 災害時要援護者支援の体制づくりに取り組む	×	○	△	×	H28 避難訓練に参加		避難訓練時に自治会単位で対応を検討
(3) 1家族1名の市民救命士習得を	⑩ 災害時要援護者支援の体制に基づく訓練を実施する	×	×	×	×				
	⑪ 1家族1市民救命士習得を、既存の媒体等で呼びかける	○	○	○	○	講習会実施 インストラクターの養成		受講者数のアップ	
	⑫ 地域委員会のメンバーが核になり、高齢者の会食等の機会をつくり、呼びかける※	○	○	○	○	パンブークラブ		一斉クリーン作戦継続	
5 住民交流・親睦	(1) いろいろな立場や世代の住民の交流・親睦を図れる機会や場をつくる	① 一斉清掃を中学校と連携して実施する	○	○	○	○	美竹つ子応援団クリーン作戦		継続実施
		② たけのパークを利用した男性中心の食事会やビアパーティを開催する	×	○	○	○	「おやじの会」 駐輪場受託や公園管理会など		さらに 社会貢献活動につなげる
		③ 竹の台全体の旅行(農業体験、バス旅行など)を企画、開催する	×	×	×	×			
	(2) 住民交流・親睦のための環境を整	④ 夜に行うウォーキングサークルを呼びかけ、開催する	×	×	×	×			新たな交流事業として 「食べれるまち」竹の台企画
		⑤ 竹の台全体で参加できるスポーツ・健康イベントを企画、開催する	×	×	×	×			
		⑥ 駅近くのマンション・企業ビルに、地域の活動スペースを設けてもらう	×	△	△	×	マンションに 子育てスペース確保		地域の交流・活動スペースの要望
	(3) 住民交流・親睦の場を支援する仕組みをつくる	⑦ 既にある学校・保護者活動に地域が協力する、国際交流活動を検討・実施する	○	○	○	○	オーストラリア・キングストン小学校と竹の台小学校との交流活動に住民が参加		竹の台小30周年記念事業の支援
		⑧ 竹の台全体で参加できるスポーツ・健康イベントを企画、開催する	×	×	×	×			
		⑨ たけのパーク、スポーツ21、福祉センターを軸に交流団体リストをまとめ情報発信する	○	○	○	○	新聞・HPで情報発信		各団体への広報活動啓発
6 地域団体のあり方	(1) 自治会・管理組合の運営体制をつくる	① 自治会の魅力アップ、メリットづくりを提案し、実施してもらう	×	△	△	○	団体別懇談会の開催		自治会の魅力やメリットの発信
		② 会長の立候補制、役員任期の2年毎重複体制化を自治会に提案し、実現する	△	△	△	×	団体別懇談会で提案 一難しいとの結論		
		③ 地域団体の連携を検討し、体制づくりを行う	△	△	△	△			継続的に連携提案
	(2) 新たな地域活動主体を育てる	④ 地域団体が連携し、行政と一緒に対話する場をつくる	×	×	△	△	H28 対話の場実施		地域団体の連携が課題
		⑤ 神戸市とパートナーシップ協定を締結し、より緊密な連携体制をつくる	×	×	×	×	パートナーシップ協定制度の終了(H28)		
		⑥ 協力できること、得意なことを登録できる人材バンクを検討し、体制をつくる	×	×	×	×			避難所運営人材バンク検討
		⑦ 有償ボランティアの仕組みづくりを検討する	○	○	○	○	NPO法人たけのコム		
		⑧ 就労世代や65歳以上男性を対象とした登録制組織をつくる	×	○	○	○	「おやじの会」		
		⑨ ゴミステーションの掃除等を地域ビジネスとして解決する	×	×	○	○	H28 NPO法人たけのコムによる 西神中央駅前駐輪場の受託		